

F男に生きて働く力を育て自信をもたせる指導

—— 学級指導、作業学習を通して ——

西村明倫・安住順一・出脇典子

生徒名 M・F 高等部3年(18歳・男)本校中学部卒業 IQ……45(鈴木ビネー)

1 取り組みについて

(1) 実 態

F男は、明朗快活で、指示に対しやる気をもって素直に取り組む。また、言語が活発で会話の応答がよく、生き生きとした感じが強い。反面、理解力に劣ることや器用さが無いことに加え、集中力が大きく欠けているため、特に作業に対して自信がなく、能率も悪い。また極端に緊張しやすく、わずかの負荷が加わるだけで、物事を判断する精神的余裕を失う。さらにF男は、こわい者(よく注意を受ける教師、力が強く理解力のある友人等)には従属的であるが、それ以外の者には支配的で、指示をして友人を動かしたり、言葉や行動で相手を傷つけたりする傾向も強い。

(2) 目 標

上記の実態が示す通り、F男は、行動面で意欲的であるのに比べて、情緒面・精神面での未発達が目立つ。 「自信」がないことが意欲を削ぎ、真の成就感を味わうことにつながらない。そのため、精神的なたくましさや情緒の安定を図ることが難しいのではないかと判断し、友人に対する攻撃的な言動も、自信がないことに起因する代償行為ではないかと判断し、F男の指導目標を次のように設定した。

『自分に合った課題を責任をもってこなすことにより、集中力や根気強さを身につけ、自分の態度や行動に自信をもつようにする。』

目標に対しては、⑦社会生活に必要な基礎的知識や技能を高める。④適性や能力をみきわめ、それにみあった課題を与えて最後まで確実にやりとげさせる。それにより、これなら自信をもってできるという活動をふやしていく。という具体的なめやすを設け、指導の方向を明確にすることに努めた。

(3) 具体的な取り組み

目標へのアプローチは、日常生活全般を通して行うものである。学級では、「ひもを結ぶ」技能習得に継続的に取り組ませた結果要領を習得し、農園作物の茎を支柱に結びつける作業を自信をもってした。また「ミシン線に沿って紙を切る」活動に、タイムを計ったり友だちと競争させるなどして取り組ませた。正確さと共に能率も徐々にアップし、いつも負けていた友に勝つ喜びも味わうことができた。

以下、農耕園芸コースにおける作業学習で技能を高め、自信をもって取り組むようになった指導事例を述べたい。

2 農耕園芸コースの概要

農耕園芸(以下、農園)作業は、○大まかで、繰り返しのできる作業が多い。○作業内容に変化をもたせて、興味を持続させることができる。○自然の中での活動であるため、情緒の安定を図りやすい。○体力の養成や働くことの厳しさを体得することができる。といった特性をもつ。

このような特性をもつ農園作業に、高等部の生徒は昨年度週3時間取り組んだが(合同農園)十分な効果を上げることができなかった。そこで、本年度は、個人目標や実態・適性等を考慮し抽出した5名の生徒を合同農園と新たに設けた週8時間の農園コースの学習を通して個人目標の達成を図るべく指導していくことにした。年間計画は表1に示す。

表1 作付・収穫に関する年間計画

作物名	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
玉ねぎ			■							×			
えんどう豆			■							×			
いちご		■						×					
じゃがいも			■										
枝豆		×			■								
にんじん		×			■								
キャベツ		■							×				
レタス		×	■										
いんげん			×	■									
さつまいも				×				■					
調理 加工 販売	調理	○	◎	◎	◎	△	△	△	○	○	◎	○	○
	加工	△	○	△	△	△	△	△	◎	△	△	○	△
	販売	△	○	◎	○	△	△	△	◎	○	○	△	△
行事		農園実習(泊)		キャンプ		農園出校日			即売会	もちつき大会		作業実習	卒業式
きゅうり		×		■									
ピーマン		×		■									
トマト		×		■									
なす		×		■									
かぼちゃ				×	■								
すいか		×		■									
大根							×		■				
はくさい							×			■			
ブロッコリー								×		■			
花類											×		■

×印 — 播種又は苗の植え付け時期



— 収穫期

段階別作業内容表を表Ⅱに示す。これは、本校の段階別教育内容表をもとに、農園作業に必要な知識や技能をA～Hの作業にそって、3段階に配列したものである。この表をもとにして、生徒の到達度を把握し、具体的な指導方針や手だてを検討することにした。

表Ⅱ 段階別作業内容

作業 \ 段階	1	2	3
A 耕地	<ul style="list-style-type: none"> 道を歩く 	<ul style="list-style-type: none"> 用具を土でならす 用具で土を掘りおこす 土を運ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> スコップで土を反転する 用具で土を細かくくたく 耕運機で耕す
B うね作り	<ul style="list-style-type: none"> 移植ごてで表面をならす 	<ul style="list-style-type: none"> 用具を用いて作る（ロープ使用） 	<ul style="list-style-type: none"> 用具でまっすぐ作る（ロープ使用せず） 幅、高さを考えて作る
C 施肥（追肥）	<ul style="list-style-type: none"> 肥料を運ぶ 肥料を小箱に移す ゴム手袋をする 	<ul style="list-style-type: none"> ばらまきをする すじまきをする わらをしく 水にといてまく 	<ul style="list-style-type: none"> 点まきをする 作物をさけ、そのまわりにまく 肥料の量がわかる まく肥料がわかる
D 球根苗の植え付け	<ul style="list-style-type: none"> 点まきをする 土をかぶせたかかない 手で穴をほる 両手で苗をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> すじまきをする ばらまきをする 種と土をまぜ、まく 移植ごてを用い、苗を植える 	<ul style="list-style-type: none"> 等間隔に穴をほり植える 植える深さがわかる
E 手入れ	<ul style="list-style-type: none"> じょろで水をまく 排水路を作る 名札をつけ作物名を覚える 	<ul style="list-style-type: none"> スプリンクラーで水をまく 支柱をたてる ホースで水をまく くいを打つ 虫を捕殺する 	<ul style="list-style-type: none"> 枝芽をとる 支柱を固定する 間引きをし、適当な間隔を保つ マルチングをする 消毒方法を知り、まく 支柱に苗を結ぶ
F 収穫	<ul style="list-style-type: none"> 収穫箱を準備する 手でする 収穫ばさみでする 	<ul style="list-style-type: none"> かまでする スコップでする（いも類） 移植ごてでする 	<ul style="list-style-type: none"> くわでする 収穫期がわかる
G 調理販売	<ul style="list-style-type: none"> 作物を洗う 包丁で切る 皮をむく 	<ul style="list-style-type: none"> 大小に分ける 簡単な調理をする 束ねてくる 	<ul style="list-style-type: none"> 不良品を見つける はかりではかる 領収証・受注簿をかく 簡単なお金の計算をする 人と話をする
H その他	<ul style="list-style-type: none"> 用具の整理をする 草とりをする 石ひろいをする 	<ul style="list-style-type: none"> 穴をほり物をうめる かまで草をかる 松葉かき、フォークで草を集める ねこ車を利用し、物を運ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> のこぎりで木をきる なたで木をわる 火をもやす

3 F男の指導事例

(1) 実 態

F男の全般的な実態は前述の通りであるが、作業に関する大きな特徴として、「得意なこと」と「苦手なこと」とでは取り組む意欲や、態度にたいへんな違いがあることが上げられる。得意な作業には、明るい表情で、生き生きと取り組むが、苦手なこととなると、落ち着きを失い、作業に集中できないのである。

段階別作業内容表をもとに、実際の学習場面のF男を観察した結果、F男は、○石ひろい、○草とり、○スコップを用いた作業、○物の運搬、を得意としていることがわかった。各々の作業に道具や作業方法について指示を与え、くわしく作業の様子を調べてみると、次のようであった。

(図中の◎はたいへん得意、○は得意、△は普通、×は苦手な作業を示す)

○草とりについて(図1)

活動	根が細くて浅い草				根が太くて深い草		
	◎道具を使わない	⑥かまを使う	②くわを使う	④スコップを使う	◎道具を使わない	①スコップを使う	③シャベルを使う
動							
評価	◎	×	×	△	○	△	×

・素手での作業がたいへん得意で、草とりはほとんどこの方法で行う。道具を用いた作業は苦手の傾向にあり、できても能率が悪く、はかどらない。

○石ひろいについて(図2)

活動	◎道具を使わない	◎道具を使わない	◎シャベルを使う	④スコップを使う	◎ふるいでわかる	①つるはし、スコップを使う
動						
評価	○	○	△	○	○	○




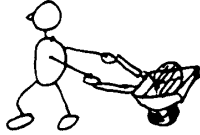
・石の場所が土中か否かにかかわらず、素手で作業することは得意である。④～①に示すような作業量のある仕事はたいへん得意で、好んで作業を続ける。

○スコップを用いた作業について(草とり・石ひろいとの関連あり)(図3)

活動	◎穴ほり	◎移動	◎反転
動			
評価	○	◎	△

・全般に得意ではあるが、手首の使い方、手足の協応動作にやや難がある。

○物の運搬について(図4)

	㊸手で持って運ぶ	㊹箱にのせて運ぶ	㊺ねこ車をおして運ぶ	㊻ねこ車をひいて運ぶ
活 動				
評 価	○	◎	◎	△

・全般に得意である。

以上の結果から、「苦手なこと」に対してしりごみをする傾向の強いF男には、一つの作業を与えるにも、道具や作業方法に十分配慮していく必要があると考えられる。

(2) 指導方針

農園作業では、F男の個人目標の達成を図るために「得意なこと」に焦点をあて、○得意とする作業技能をさらに高める、○得意とする作業の動きや技能を生かし、他の作業技能の習得・向上を図る、という2つの方針をたてて実践することにした。

(3) 指導の手だてと経過

指導方針を基に、一学期はスコップを用いた作業に、二学期にはくわを用いた作業に、各々重点を置いた指導を試みた。以下、それらの事例を述べる。

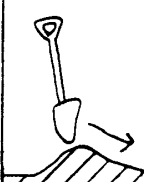

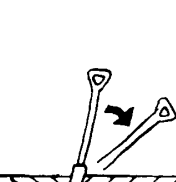
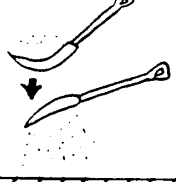
① スコップを用いた作業技能をさらに高める指導(穴を掘る技能について)

○実態

F男には草をとる・石をひろう→運ぶ→穴を掘る→埋めるという一連の作業を少しずつ任せていき、こういう仕事であればできるという喜びを味わわせ、自信をもたせるように配慮をしたが、日を迫うに従って、集まる草や石が多くなり、作物の手入れや収穫などの作業にかかわる時間が少なくなってきた。穴掘りの作業に時間を要したのである。その作業の様子をよく観察してみると、F男は、・四方から掘る・スコップの表と裏を使って、穴の側面をけずり落とす・穴の中の土を掘り上げるといった技能が十分身に着いておらず、穴が深くなるにつれ、穴がだんだん小さくなり、能率が悪くなっていたのである。

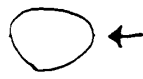
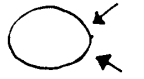






○手だてと変容

穴掘り作業の中で、上記のつまずきに対し、細かくひとつひとつの要領を指導することは、巧み性や理解力に劣るなどのF男の実態から考えて、好ましくない。そこで、下図に示すようなスコップを用いた作業に取り組ませ、穴を掘る技能の変容を見ていくことにした。なお、図中の㊸～㊻の作業は毎時間、各々10分程度行わせるようにした。

活動	㉓土をならす	㉔土を細かくくだく 表を使う 裏を使う	㉕土を反転する	㉖灰をまく
				
方法	① 手前にならす ② 横にならす	① 表を使う ② 裏を使う	① 手だけで ② 足をそろえて	① いっぺんにばらまく ② 少しずつ落とす

・㉓の技能がやや劣っており、習得するのにかなり時間を要した。

上図㉓～㉖の作業に取り組み始めてからの穴掘り技能の変容は、下図に示す。なお、穴を掘る際、掘る場所を石灰で丸く囲んでおく以外の手だてや指示は加えないようにした。

期日	5月18日	6月6日	6月22日	7月4日
方向				
穴の状態				
方法	一方向から掘る	ひざをついて土を掘り出す	移動して全方向からまわりをけずる	穴の中に入って土を掘り上げる

・徐々に穴掘りの技能が高まっていることがわかる。

○考察

F男は㉓～㉖の作業にこれといった抵抗を示さず、熱心に取り組んだが、このような手指・腕・足・全身を使った作業を繰り返す中で、F男はスコップを使う技能を高めていったということが考えられる。

高まりを見せたこの掘りの技能はさつまいもの収穫時に非常に生きた。土がやや固くなり、収穫作業がはかどらない時、F男はスコップを持って来て、いもにスコップの刃が当たらないよう入れる位置・角度に注意しながら掘り始めたのである。スコップを用いて収穫できる喜びは、収穫の喜びとあいまって、大きな自信となり、次の活動へと生きて行った。

② くわを用いた作業の技能を身に着ける指導


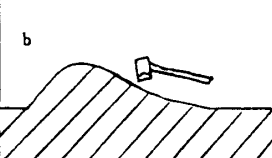
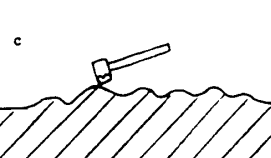
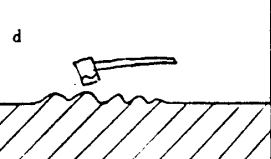
○実態

F男はくわを用いて平らな土地を掘る・耕すなどの作業がかなり苦手である。くわの柄を地

面に平行にしたままで真下に振り下ろしてしまうため、くわの刃が土の中に入らなかったり、くわを曲げてしまうことが多かったのである。

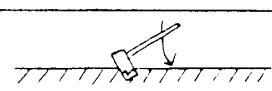
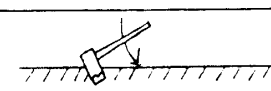
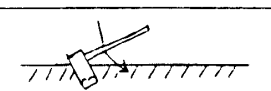
○手だてと変容

本農園は連作が多いため、作物の育成が悪くなっていた。そこで、客土を畑に入れることにした。この時期を利用し、F男にくわを用いた作業の技能を身に着けさせようと下図の③～④に示す作業を合わせて40分程度、毎時間取り組ませることにし、うね作りの技能を通して、くわを用いる作業技能の習得状況を追ってみることにした。

活動				
方法	つきさし、土をおろす	つきさし、土をひきのぼす	土をならす	土をくたく

・③・④の作業技能を習得するのは比較的早かった。③～④の作業を繰り返すうちに、柄を握る位置を変えたりして、自分にあった方法で作業するようになった。

上図③～④の作業に取り組み始めてからのうね作り技能の変容を下図に示す。

作業内容	経過	7 日 後	14 日 後	21 日 後
作業方法	くわをおろす	 ・くわの入りが少ない	 ・くわの角度を意識しだした くわの入りもやや良くなった	 ・くわの入りは良くなったが、力の加減がうまくできない。
	土をすくいあげる	・土の量が少ない	・土の量がやや増える	・土の量が増える
	土をおろす	・くわ先をやや深く上げて土をふるい落とす うねの上から土が落ちやすい	・くわ先を上げ土をふるい落とす	・くわ先をややなめにし、土をふるい落とす

※作付時期との関連で、21日後までしか確認できなかった。

○考 察

斜面の土を引き下ろすなどの一連の作業を繰り返す試みは、F男に、くわの刃を土に入れるためには刃の角度や力の入れ方が大切なポイントになること、そして、それらが自分の腕や手首の使い方、あるいは、力を入れるタイミングによって、調節できるのだということを感じとらせることができたという意味で、効果的であった。

(4) まとめと今後の課題

F男は巧み性に劣る上、細かい指示を受けることに抵抗を示したり、緊張しやすい傾向が見られる反面、大まかで動きのある作業が得意であるということから、農園作業では体を動かす作業を中心に取組ませ、技能をいっそう確実なものとして高めたり、一つでもできることを増やすことをねらいとして指導してきた。それにより、F男の重点目標へのアプローチを図ろうとしたのである。

農園作業では、草とりや石ひろい、スコップを用いた作業など他に、F男が抵抗なく取り組める

ものをたくさん与えることができた。また、くわの技能習得に見られるように、できなかったことができるようになる喜びもいくつか味わえることができた。さらに、行事や調理を目標にした農作物の生産活動に繰り返し取り組むことを通して、自分の役割や立場を多少なりとも自覚させることができた。



農園出校日の草とり作業

これらの成果がF男の農園作業に対する関心を高め、いっそう自主的で意欲的な取り組みをするようになった。

朝、顔を会わすと、「今日の仕事は何ですか」と尋ねる。農園へ一番乗り。作業が終わると、「次は何をしたらいいですか」と指示を求める。放課後に「残って仕事がしたい」と申し出る。などがその現れである。

今後は、円滑な友人関係が保てるように配慮していく一方、慣れない作業や苦手な作業にも、抵抗をもったり、緊張したりせず、落ち着いてコツコツと努力する態度を養っていきたいと考えている。

3 考察とまとめ

(1) 職場実習における問題点

F男は、卒業後の就職を前提として、7月から8月にわたり「S園芸」で20日間、職場実習を行った。「S園芸」は造園業で、職人が依頼主のところに出向いて、庭を築くのを主たる仕事としている。F男に与えられる仕事は、○「S園芸」前庭のモデル庭園造りの手伝いで、指示を受けて除草や石運びをする。○造園に必要な石を、トラックに積んだり下ろしたりする手伝い。○造園中の庭の除草。○倉庫などの整理、整頓。○その他の雑役。といった内容のものである。

F男は、予定日数を10日余り残して実習を中断し、次のような実態と問題点を指摘された。

- ㊦ 指示に対するのみこみが悪く、他の職人の手をわずらわす。得意な草とりも、とっていい草とそうでない草があると混乱し、自信をなくして能率がおちる。
- ㊧ 指示だけして一人作業させると、ミスが多くなったり根気が続かなかったりする。
- ㊨ わからなくても自分から質問したり、仕事の終了報告をして次の指示を仰ぐことができない。
- ㊩ 社長の指示には従順だが、それ以外の人への指示には従わまいとする。
- ㊪ 慣れるに従い、生活態度にけじめを失いがちである。

(2) 今後の課題

職場実習を通して明らかになったF男の実態から、今後強化していかねばならない点として、

- ㊦ 理解力に劣ることが作業の正確さを欠いたり、能率を低下させたりすることから、わからない

ことは何度も問い直し、よくわかった上で作業にかかるようにさせる。

- ① 精神的なおさなさ(未熟)が、一人では仕事ができないという問題を生んでいる。F男にできる活動をふやして「自信」を持たせると共に、一人で仕事をするということにも慣れさせる。
- ② 強い者には従属的だが弱い者には支配的な態度が、人間関係を阻害する大きな要因となっている。自己中心的な言動や、絶えず口や体の一部が動いている落ち着きのない生活態度を反省させ、おだやかさやおもいやりなどの気持ちを育てる。

といった内容がいっそう浮き彫りされることになった。

(3) ま と め

農耕園芸での作業や学級における、細かく具体的な指導を通して技能を高めたり、自信をもって、意欲的に取り組もうとする活動がふえていることは明らかである。しかし、職場に対して、学校ですると同じ個への配慮を求めることには、自ずと限界がある。F男がどんな生活環境の中でも、真に意欲的に生き生きと取り組み、自己の能力を最大限に発揮しようとする精神的なたくましさを身につけるには、学級指導や作業学習の指導はもとより、日常生活全般を通して重点目標へより確かに迫る指導を加えねばならない。卒業まで残された時間は多くないが、心を豊かにもちたくましく社会に自立していく姿の実現に向かって、充実した指導を重ねたいと思う。

高等部のまとめと今後の課題

我々は、豊かな心もちたくましく行動する力の育成によって、一人ひとりの生徒がより確かな社会参加を果たすことを目標として教育課程や個別指導に焦点を当てて研究実践を行ってきたが、多くの問題や課題をもっている現状である。今後も研究を進めて、高等部としてよりテーマの達成に近づくために模索し、努力していきたい。

(1) 教育課程と指導計画

国語・数学・体育・音楽の習熟度別クラス編成により、個別指導がより可能となり、生徒の課題達成による喜びの場面が多くなった。また、生活一般を設けて教科の枠をとったことにより、学習活動の細切れをなくし、生活に生かす学習内容を中心に展開できるようになった。しかし、学習単位が学級・全学年縦割り・全学年合同と指導単位によって変ることから指導単位相互の間で、集団指導のなかでの個別指導の関連づけや1年から3年までを見通した学習内容の構成をどうすればよいかを、指導内容の精選を含めて検討しなければならない。

(2) 個人目標の設定と指導

生徒の実態分析、個人目標の設定から研究授業、指導の成果や問題点など、高等部教官全員で検討をしてきたことは、生徒の個人の共通理解を強める機会ともなり、一人ひとりの生徒が課題意識をもち意欲の高まりを図ることにもつながった。しかし、つぎのような問題点や課題を今後の研究によって解決しなければならないと考えている。